

AIDSネットワーク横浜 ニュースレター

発行：特定非営利活動法人 AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9F

TEL：045-201-8808 fax：045-201-8809

ホームページ <http://www.netpro.ne.jp/any/>

e-mail：any@netpro.ne.jp



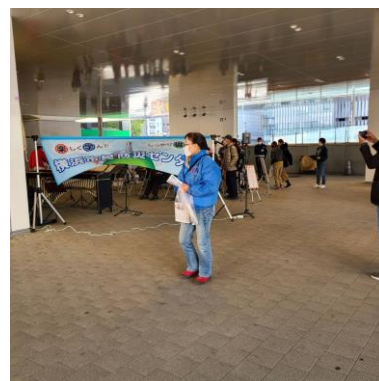
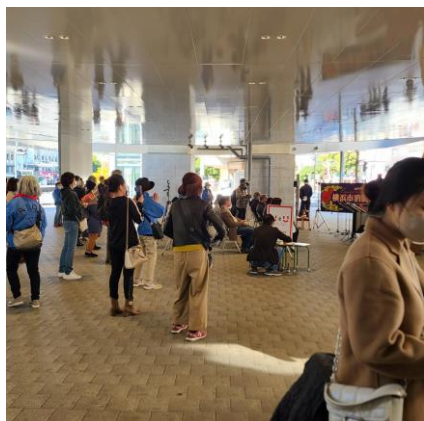
横浜市消防音楽隊を迎えて 世界エイズデーイベント 盛り上がりつつ終了！

会場：JR関内駅北口広場

日時：12月1日(日) 10時～12時

横浜エイズ市民活動センターと共にエイズデーのイベントに参加しました。
お天気も良く、駅への乗り降りの方々に200セット用意した啓発パンフレットを配布しました。
横浜市消防音楽隊の演奏が始まると足を止めて聞き入ってくださる方も多く、楽しいひと時でした。コムちゃんも家族連れの子もたちに大人気でツーショットの写真撮影に応じていました。

ANYから持参したクリスマスツリーも場を盛り上げてくれました。コロナ禍後、はじめてリアルなイベントに参加できよかったです。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。



第31期ボランティア学校 & 事例検討会学習会 テーマ HIV検査 講師 神奈川県衛生研究所 佐野貴子さん

電話相談員にとっては、必須の「HIV検査」の動向です。佐野貴子さんの講座を受けました。

・日本のHIV感染者・AIDS患者報告数の動向

2023年までのHIV感染者24,532人、AIDS患者10,849人

2023年の新規感染者数960人(内訳HIV感染者669人、AIDS患者291人)

保健所等(無料・匿名)での陽性者316人

・HIV感染症の治療費は280万円/年……一生で1億円

・保健所等で行われているHIV検査体制

☆抗体検査は、1987年から匿名、無料・保健所で受けられる体制に。

・妊婦健診でのHIV検査

妊娠初期(12週頃)にスクリーニング検査を実施(公費負担)

日本のHIV感染妊娠は約0.01%と極めて少ない。

母子感染は適切な予防対策で感染率を1%未満に低下させることが可能

妊婦健診の未受診例や妊娠中にもHIV感染するリスクもあり、2010年以降16例の母子感染が報告されている。

・検査を受ける時期に関する基本的な考え方

以前は、「感染リスクから3カ月たってから検査を」だったが、現在は、「心配なことがあれば、まず検査を(必要があれば3カ月以上たってからの再検査を)」

・HIV郵送検査の流れや自己診断キットの問題点、梅毒報告数の推移等多岐に亘ってのお話を聞くことができました。



令和6年度HIV検査従事者のためのエイズ専門研修受講報告 日時: 令和6年12月20日 会場: 神奈川県庁西庁舎 中野久恵

表記研修会に申し込んだものの、受講者はまさに県内で「HIV検査に従事する方々」でした。

1講座は、「地域での効果的な啓発方法」と題して、特定非営利法人akta理事長岩橋恒太さんからのお話。

コミュニティセンターaktaは、2003年に新宿2丁目に厚生労働省委託事業「同性愛者向けコミュニティセンターを活用した広報等一式」により開設されました。

aktaのビジョンは、「全ての人がHIVとともに生きているという視点から多様なセクシュアリティと性の健康の認知と理解をはかり、だれもが自分らしく暮らせる街づくりに寄与することを目的とする」とあります。私たちが電話相

談の活動の中で繰り返しお話している内容と重なります。

aktaの考える日本のHIV/AIDSの課題は、

【治療・人権】差別・偏見ゼロ U=U(Undetectable=Untransmittable)とLiving Togetherにより、コミュニティと社会全体のスティグマをなくす

【検査】AIDS発症をゼロ HIV検査の実施体制と選択肢の強化

【予防】新規HIV感染ゼロ HIV感染予防に対する啓発の推進とPrEP・選択肢の拡充

2024年開催の日本エイズ学会学術集会会長をakta岩橋さんが担当されました。

2025年は、UNAIDS・WHOが提唱する 95-95-95(診断 95%－治療開始 95%－検出限界未達 95%)の期限です。

第2講座は、ふれいす東京の生島嗣さんから「HIV陽性者の手記朗読」を数名のグループで朗読し合い感想を述べるグループワーク。

第3講座は、「セクシュアリティに配慮したHIV検査での対応」のロールプレイングをグループで実施。

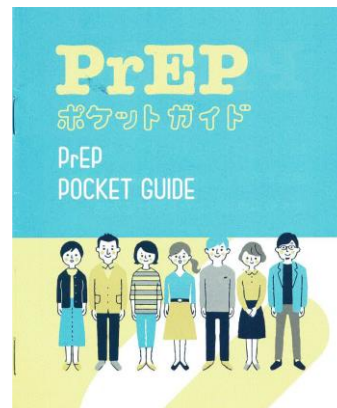
その後、全体の振り返りという内容で濃密な3時間に亘る講座でした。

♥ PrEPについて、「PrEPポケットガイド」をもとにメモしておきます。♥

PrEP

HIVに感染するかもしれない行為の前と後に、薬を飲み感染リスクを下げる方法
性別、セクシュアリティに関係なく、誰でもできる
特にすすめられているのは…

- HIV感染リスクの高いセックスをする人
- HIV感染リスクが高い方法で、薬物注射を使う人



効果についての研究結果

海外

MSM(男性と性行為をする男性)でちゃんと飲めた人出は 99%感染リスクを下げる(推計)
静脈注射を行う人で、74%感染リスクを下げる

日本

MSM124人を対象としたディリーPrEPの処方、2年間の追跡でHIV感染報告なし

PrEPには2つの方法と2種類の薬がある
性別などによって使える薬に違いがある

●2つの方法

1. ディリーPrEP…毎日1錠飲む
2. オンデマンドPrEP…sexの前後に飲む

●2つの薬

- a. ツルバダRなど(TDF/FTC)
ディリー、オンデマンドどちらにも使える
- b. デシコビR等(TAF/FTC)
ディリーにだけ使える

誰がどれを使える？ /

		ディリー		オンデマンド	
		ツルバダ	デシコビ	ツルバダ	デシコビ
ゲイ/バイ男性		○	○	○	デシコビは、オンデマンドでは使用できません
異性愛男性		○	○	○	
女性		○	×	×	
トランス男性 (FtM)		○	×	×	
トランス女性 (MtF)	ホルモン「有」	○	○	×	
	ホルモン「無」	○	○	○	
注射薬物使用者		○	×	×	
慢性B型肝炎		○	○	×	

トランス…トランスジェンダーの略。
生まれたときに割り当てられた性別に違和感がある人、異なる性別で生活する人



PrEPの飲み方

デイリー…毎日1錠、同じ時間に飲む

- 1日1回決まった時間に1錠、毎日服用
- 飲み始めて7日以上で予防効果が得られる
- 何時間か前後しても、薬の濃度に悪影響なし

PrEPをするときに必要な検査&すすめられている検査

(表略)開始時には、HIV、STI、腎機能、B型肝炎、C型肝炎、妊娠、脂質代謝など必要

注意点

- HIVに感染している場合、PrEPはできません。HIVの治療へ
- 性感染症に感染していた場合、治療しながらPrEPを
- 腎臓の機能が低い場合、PrEPできないことも
- 慢性B型肝炎の場合、オンデマンドPrEPはできません



エイズ学会のガイドを遵守する医療機関をリンクづくり、医療者への啓発も行なっている。

Doxy PEP/PrEP ガイド



運営委員会報告

○新規入会者紹介…末永くよろしくお願いいたします。

- ・菅原 仁美(すがわらひとみ)さん
- ・波平 峰(なみひらみね)さん

○新しい年を迎えました。

今年もよろしくお願いいたします。

自分自身のからだのメンテナンスをしながら健康に留意しながら活動していきましょう。

皆さまにとって、飛躍の年になりますように！！

オンデマンド

リスク行為の前後に飲む

- ① セックスの2～24時間前に2錠
 - ② ①の24時間後に1錠
 - ③ ①の48時間後(②の24時間後)に1錠
 - ④ 必ずこの[2-1-1]サイクル守って！
- *②と③の時間は、①の最初に飲んだ時間が基準/セックス終了からの時間ではない
*セックスが連日ある場合は、24時間ごとに1錠飲み続け、最後にセックスのあった日から2日後(翌々日)まで飲む

PrEP in JAPANプラットフォーム



〔メモ〕

ツルバダ配合錠は、「HIV治療薬」としてはすでに日本でも承認されていたが、「HIV予防薬」としては未承認だった。

PrEPに用いられているツルバダ配合錠とデスコビ配合錠のうち、ツルバダ配合錠が2024年8月28日に日本で薬事承認された。

ツルバダ配合錠が医療保険の適用を受けるには、今後更なる手続きが必要となる。

